



REPORT 2025

2024.04~2025.03

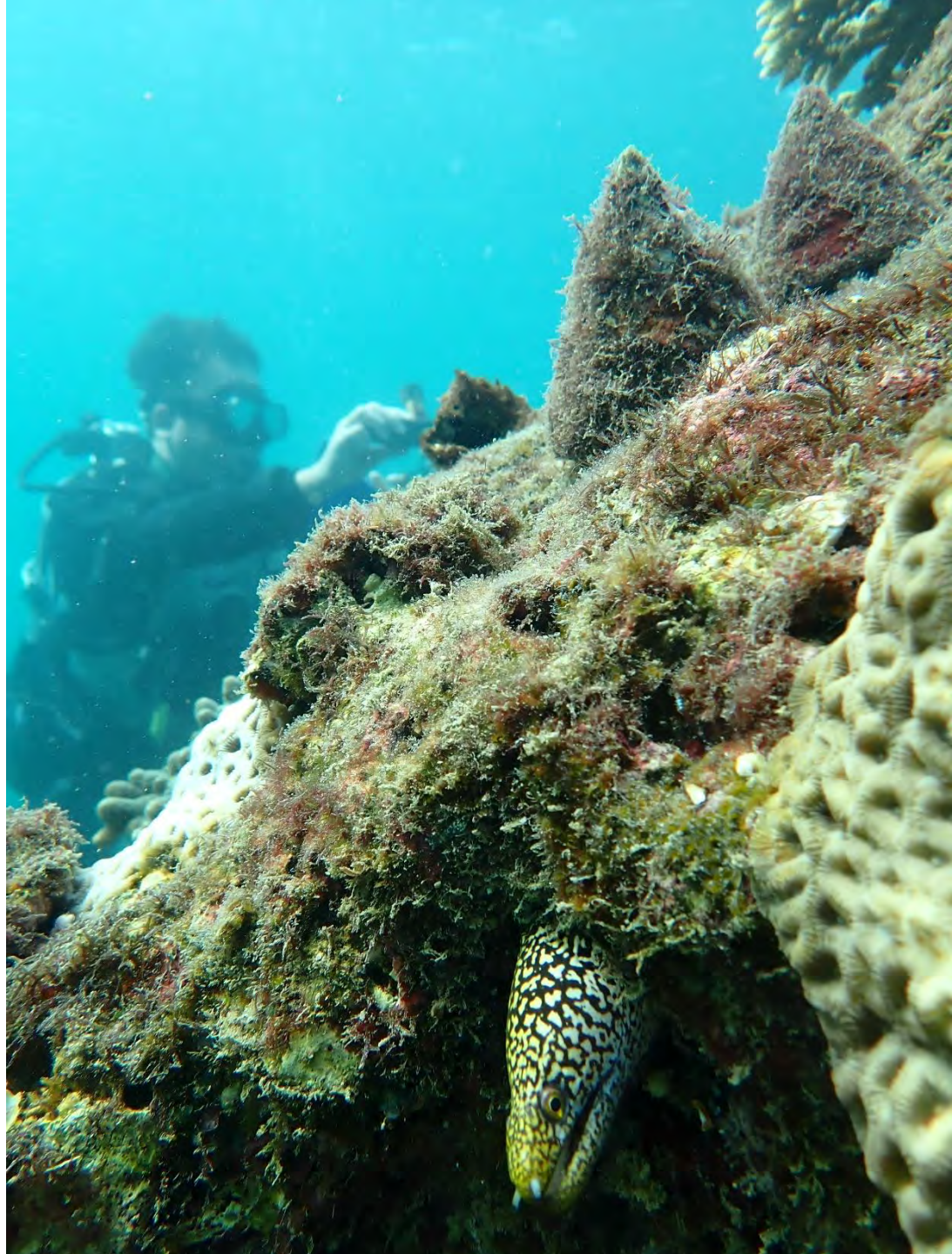
特定非営利活動法人 OWS

■東京事務所

TEL:03-6432-9917 〒150-0013東京都渋谷区恵比寿1-6-6-301

■三浦事務所

TEL:046-876-6101 〒239-0841神奈川県横須賀市野比2-20-13





沿革

1998年 11月●OWS創立総会開催 渋谷区恵比寿に事務局を設置
1999年 02月●北西ハワイ諸島ミッドウェー環礁に現地事務所設置
06月●ミクロネシア・パラオに現地事務所設置
09月●東京都NPO法人の認証取得
2000年 02月●各種会員の募集開始
03月●会報「季刊エブオブ」創刊
08月●公式ホームページ開設
2001年 02月●会長にジャック・T・モイヤー氏、副会長に倉田洋二氏 就任
06月●ネイチャースクール(自然体験学習プログラム)開始
2002年 01月●OWSネイチャーガイド養成コース開始
04月●アンガウル州立自然公園プロジェクト開始
09月●事務局を目黒区下目黒に移転
10月●海のセミナー開始
2003年 06月●水中ゴミ調査開始
09月●アンガウル州立自然公園ビジターセンターオープン
11月●海のトークセッション開始
2004年 05月●長谷川博氏(東邦大学理学部教授)OWS会長就任
06月●海辺の自然教室開始
2005年 09月●インド洋クリスマス島においてボランティアプログラム開始
10月●事務局を豊島区雑司が谷に移転
2006年 01月●メンバーによる各活動の実行委員会を設置、運営開始
2007年 07月●OWS 5人の写真展(巡回写真展)開始
2008年 03月●北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト開始
05月●砂浜海岸生物調査開始
2009年 09月●ネイチャースクール 日帰りプログラム開始

2010年 03月●造礁サンゴフィールド図鑑～伊豆・三浦・房総編発行
05月●海辺のナチュラリスト講座開始
2011年 04月●東日本大震災 被災地支援活動開始
06月●ミッドウェー環礁調査ツアー実施
2012年 06月●江奈湾干潟保全活動開始
06月●未来に残したい海プロジェクト・自然観察&カメラ教室開始
12月●子どもフォトコンテスト開始
2013年 04月●江奈湾・毘沙門湾干潟生物調査開始
07月●海洋ゴミ企画展開始
11月●事務局を渋谷区千駄ヶ谷に移転
2015年 04月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での造礁サンゴモニタリング調査 開始(新サンゴ調査プロジェクト開始)
2017年 10月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での魚類調査開始
2018年 09月●OWS創立20周年と国際サンゴ礁年の特別イベントとして、
海セミナー2018 海の話・サンゴの話を開催
11月●世界最北のサンゴ礁対馬サンゴ礁の水中ごみ回収活動実施
2019年 10月●長崎県五島市福江島のオオスリバチサンゴ調査実施
2020年 02月●世界アルバトロスデー & シーバードウィーク実行委員会結成
長谷川会長が委員長就任、OWSが運営事務局となる
07月●和歌山県那智勝浦町のゆかし潟保全活動開始
2021年 02月●WEBサイトリニューアル、主要な活動を4プロジェクトに統合
2023年 12月●干潟保全活動の協力研究者の共著による三浦半島江奈湾の底生動物をベントス学会誌78巻に掲載
2024年 05月●事務局を渋谷区恵比寿に移転、
神奈川県横須賀市に三浦事務所を新設



組織概要

名称	OWS(オーダブリュエス) (OWSという名称は The Oceanic Wildlife Society (英語表記) の頭文字からとったものです)	
所在地	東京都渋谷区恵比寿1-6-6-301 TEL: 03-6432-9917 〈三浦事務所〉 神奈川県横須賀市野比2-20-13 TEL:046-876-6101 https://www.ows-npo.org/ E-mail: info@ows-npo.org	
目的	OWSは、国内外の海洋域における自然環境及び生物とその生態系について、科学的な調査及び研究を行い、その結果得られた情報及び成果の有用な活用とその自然環境の維持・保全を目的とした活動をもって、地域社会に貢献するとともに、環境保護意識の普及を図ることを目的とする。	
役員	会長	長谷川 博
	代表理事	横山 耕作
	副代表理事	高砂 淳二
	理事	森 紀子
	理事	宮川 貴子
	理事	杉森 雄幸
	理事	池上 喜代壱
	監査役	福田 秀人
	法律顧問	矢田 誠



2024年度 活動報告

● ネイチャースクールの開催

① 5月11日

- ・「磯・干潟の生きもの観察 & ごみ回収体験」
- ・開催地：江奈湾の磯と干潟
- ・参加者数：三浦市小学校5校から13名＋教員



② 5月25日

- ・「磯・干潟の生きもの観察 & ごみ回収体験」
- ・開催地：江奈湾の磯と干潟
- ・参加者数：8名（企業コラボ）



③ 9月7日

- ・「磯・干潟の生きもの観察 & ごみ回収体験」
- ・開催地：江奈湾・東干潟と磯海岸
- ・参加者：21名（企業コラボ）



●海洋ごみ写真資料展「海洋ごみについて考えよう！」

・4月札幌環境プラザ:2,428名(3カ月間)



・8月豊通グループ:150名



・7月東京港野鳥公園:1,256名



◆海洋ごみ削減啓発チラシの配布

●ごみ回収活動

◆江奈湾での回収

① 5月11日 東干潟 参加者:17名 47.76kg
ネイチャースクールプログラム(剣崎小教員参加)

② 5月25日 東干潟 参加者:41名 491.64kg
豊通ケミプラスとグループチーム

③ 9月7日 東干潟 参加者:27名 201.84kg
三井住友カード(VISAジャパン)社員チーム
日大生物資源科学部チーム

④ 2月15日 西干潟 参加者:6名 100.77kg
一般募集

⑤ 3月15日 西干潟 参加者:11名 158.43kg
一般募集



・延べ参加者:102名
・全回収量 :1,000.44kg

●ごみ回収活動

◆その他の場所での回収

① 7月21日(日) 城ヶ島磯観察&ごみ回収

・参加者:11名 回収量:15kg

② 11月16日(土) 対馬サンゴ礁と干潟の回収活動

・参加者:7名 回収量:6,000kg



崖上までの距離があるためペットボトルと発泡スチロールのみ回収



・延べ参加者:18名
・全回収量 :6,015kg

●その他の活動

◆エブオブによる情報発信

- ・95号サブ特集「なぜ人工芝を使ってはいけないの？」

◆エコメッシュ頒布:19個

- ・啓発用にダイビング事業者に配布

◆海洋ごみ削減チラシ配布:800枚

- ・写真資料展会場等で配布



◆取材 対馬市くじか浜

- ・2025年度回収のための下見取材

◆減プラスチックNGOネットワーク

- ・8月文科省に提言/参議院陳情
- ・2月立憲民主党議員 ヒアリング

◆WWF ゴーストギア調査への協力(新潟・山形)

- ・現地ダイビング関係者の紹介と説明会への参加



●東京港野鳥公園干潟の調査（公財）日本野鳥の会との共催

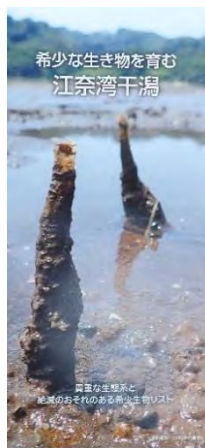
◆5月7日参加者12名



●普及啓発

◆観察会 6回実施 通算67回

◆リーフレットの制作・配布 1,500部を配布



◆ウェブ図鑑随時公開中



研究者に生体を送付: 未記載種
タテジマイソギンチャク近縁種

● 保全（ごみ回収 5回）



江奈湾ゴミ回収記録		
年度	回数	回収量
2012年度	3	1,307.8
2013年度	4	1,051.8
2014年度	6	652.4
2015年度	4	1,109.3
2016年度	3	474.7
2017年度	2	297.4
2018年度	3	775.0
2019年度	3	506.5
2020年度	0	0.0
2021年度	4	1,188.1
2022年度	8	1,718.2
2023年度	5	915.4
2024年度	5	1,000.4
合計	50	10,997.0

◎2024年度(5回)の回収量

1t

◎13年間(50回)の回収量

10t

+

投棄ごみ捨て場
回収分:40t

51t

●調査

◆6月8日第12回干潟ベントス調査

- ・参加者: 27名
 - ・新規記録種: 26種以上
- ※地元学校教員、大学関係者他15名参加



クチバガイ



ミヤコドリ



アカムシ



ショウジンカニダマシ



ヤジマクリムシ



●ゆかし潟での活動

◆7月6日～7日ゆかし潟ベントス調査(5年8回目)

・参加者:17名

※協力研究者、和歌山県立自然博物館、地元教員が参加



県絶滅種:オカミミガイ発見



ゆかし潟初記録マゴコロガイ



ソーティング風景



参加者 17名

◆ゆかし潟リーフレットの制作と配布(2,000部)

地元中学、環境省・宇久井ビジターセンター、吉野熊野ジオパークセンター
那智勝浦教育委員会、ゆかし潟隣接レストラン他



5年間8回の調査成果を公開



希少ベントス類
61種を掲載

●モニタリング調査&魚類調査 国立研究開発法人・国立環境研究所受託事業



坂田調査中に出現したミナミハンドウイルカの親子

◆2024年度各調査実施日

- ①安良里 : 10月09日
- ②田 子 : 10月10日
- ③串 本 : 10月16日～18日
- ④竜 串 : 10月29日～31日
- ⑤壱 岐 : 11月12日～13日
- ⑥対 馬 : 11月14日～15日
- ⑦五 島 : 12月09日～12日
- ⑧天 草 : 01月21日～23日
- ⑨坂 田 : 01月27日
- ⑩沖ノ島 : 01月28日

● 造礁サンゴ探索調査実施

① 10月1日～2日
山形県鶴岡 探索調査
参加者: 8名

東京大学 理学系研究科山野博哉教授との
連携調査



9群体のキクメイシモドキを確認



生息地 エントリー場所

② 3月24日 伊豆・北川 探索調査
参加者: 7名

東京大学 理学系研究科山野博哉教授との連携
調査・海底温泉とサンゴ・魚類の関係を調査



世界アルバトロスデー&シーバードウィークの取組み



●イベント

- ①写真資料・ポスター展 6月15日(土)~21日(金)
展示: 7月7日まで延長展示
- ②エクスカーション コアジサシ観察会 6月15日
- ③講演会 6月16日 対面40名+オンライン 300名



展示会場 東京港野鳥公園ネイチャーセンター

◆長谷川会長基調講演
6月16日(日)



コアジサシ観察ツアー
主催リトルターンプロジェクト

● 5月20日発行(春号) Vol.93

特集:「地殻変動を生き延びてきた生き物たち」

執筆:井龍康文(東北大学特任教授)



● 8月20日発行(夏号) Vol.94

特集:「温暖化による海流散布植物の分布北上」

執筆:中西弘樹(長崎大学名誉教授)



● 11月20日発行(秋号) Vol.95

特集:「空と海をつなぐ課題:マグロはえ縄漁業の海鳥
混獲問題と最新の取り組み」

執筆:越智大介(水産資源研究所)

サブ特集:なぜ人工芝を使ってはいけないの?

執筆:栗岡理子(環境ジャーナリスト)



● 2月20日発行(冬号) Vol.96

特集:「人はなぜ海を見続けるのか～巨大防潮堤を超える民俗～」

執筆:川島秀一(東北大学災害科学国際研究所シニア研究員)

サブ特集:OWS活動ピックアップ-干潟保全プロジェクト、サンゴ調査プロジェクト





ご支援いただいた企業・団体 2024年度

＜寄付：企業・団体＞ 順不同

- ◆リコージャパン株式会社
- ◆三井住友カード株式会社
- ◆日本出版販売株式会社
- ◆株式会社東京マツシマ
- ◆豊田通商株式会社
- ◆ブラザー販売株式会社
- ◆興洋海運株式会社
- ◆朝日ライフアセットマネジメント
- ◆株式会社ツクリ
- ◆一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会(ZESCO)
- ◆合同会社ワークアウトプラス
- ◆株式会社Q.E.D.パートナーズ
- ◆株式会社ゼロアクセル
- ◆アートロックサービス
- ◆株式会社SEEC
- ◆株式会社うちなーうえぶ
- ◆太洋産業貿易株式会社
- ◆株式会社Citruuth
- ◆一般社団法人美ら琉会 エルプラスクリニック
- ◆株式会社エスアイ
- ◆トヨタモビリティ東京株式会社
- ◆モンベルクラブ(株式会社モンベル)

＜寄付：学校＞ 順不同

- ◆中京大学 法学部 杉島ゼミ
- ◆聖心女子学院(高等科)
- ◆松山市立余土中学校
- ◆トキワ松学園高等学校

＜活動協力＞ 順不同

- ◆三浦市立剣崎小学校
- ◆三浦市立南下浦小学校
- ◆みうら漁業協同組合・松輪支所

＜業務受託・連携＞

- ◆国立環境研究所 造礁サンゴモニタリング調査
- ◆国立環境研究所 魚類調査
- ◆東京大学理学系研究科・山野博哉研究室 造礁サンゴ探索調査

＜法人賛助会員(スポンサー)＞

- 華山運送株式会社

2024年度の活動実績

事業名	事業内容	実施場所	支出額(千円)
自然体験学習事業	子ども対象自然体験学習プログラム「ネイチャースクール」の開催 ネイチャーガイド(スタッフ)研修の実施	神奈川	801
普及啓発事業	会報「季刊 エポオブ」発行および配布	全国	1,967
	江奈湾干潟観察会の開催	神奈川	
	世界アルバトロスデー & シーバードウィーク実行委員会事務局運営 講演会等の実施、絶滅危惧海鳥類のWebとリーフレットによる普及啓発	東京	
	海洋ごみ写真資料展の開催	東京&北海道	
	減プラスチック社会を実現するNGOネットワークによる文科省、衆参議員会館での陳情	東京	
	海洋ごみ抑制のためのチラシ配布 ダイバー向けマナーグッズ・エコメッシュの頒布	全国	
調査研究事業	東京港野鳥公園干潟ベントス調査	東京	4,858
	江奈湾干潟ベントス調査と論文発表	神奈川	
	ゆかし潟干潟ベントス調査	和歌山	
	山形県鶴岡造礁サンゴ探索調査	山形	
	造礁サンゴモニタリング調査、魚類調査	全国	
	静岡県北川での造礁サンゴ・魚類調査	静岡	
環境保全事業	江奈湾干潟および城ヶ島南海岸でのごみ回収活動	神奈川	2,166
	長崎県対馬市でのサンゴ礁周辺ごみ回収活動	長崎	
事業支出額			9,793



2025年度 事業計画

2025年度の活動予算

事業名	事業内容	実施場所	支出額(千円)
自然体験学習事業	子ども対象自然体験学習プログラム「ネイチャースクール」の開催 ネイチャーガイド(スタッフ)研修の実施	神奈川	891
普及啓発事業	会報「季刊 エブオブ」発行および配布	全国	1,885
	江奈湾干潟観察会の開催	神奈川	
	世界アルバトロスデー & シーバードウィーク実行委員会事務局運営 講演会等の実施、絶滅危惧海鳥類のWebとリーフレットによる普及啓発	東京	
	海洋ごみ写真資料展の開催	全国	
	減プラスチック社会を実現するNGOネットワークによる政府への陳情	東京	
	海洋ごみ抑制の啓発チラシ配布、ダイバー向けマナーグッズ・エコメッシュの頒布	全国	
調査研究事業	東京港野鳥公園干潟ベントス調査	東京	5,404
	江奈湾干潟ベントス調査	神奈川	
	ゆかし潟干潟、太田川河口干潟ベントス調査	和歌山	
	山形県鶴岡造礁サンゴ探索調査	山形	
	造礁サンゴモニタリング調査、魚類調査(2年目)	全国	
	静岡県北川での造礁サンゴ・魚類調査(2年目)	静岡	
環境保全事業	江奈湾干潟および城ヶ島南海岸でのごみ回収活動	神奈川	2,296
	長崎県対馬市での海岸漂着ごみ回収活動	長崎	
	城ヶ島・梶の浜ビーチでの水中ごみ回収活動への支援	神奈川	
	ミクロネシア・パラオでの海岸漂着ごみ回収活動への支援	パラオ	
事業予算額			10,447